

よめなみの

発行
西郷町城北町
隠岐病院長



隠岐に想ふ

離任にあたって、外科医の独り言

外科医長 藤谷 茂樹



皆さん、こんにちは。私は外科を担当している藤谷です。当院では「救命救急科」がないことから、救急患者さんを見る機会が多くありました。その中で、当院では専門的な処置や治療ができない患者さんの、本土への搬送方法についてお話をさせていただきます。

緊急搬送方法には主に四種類があります。一、県防災ヘリコプターでの搬送。二、自衛隊のC-1ジェット機での搬送。三、定期便レインボーでの搬送。四、定期便フェリーでの搬送があげられます。救急で受診された患者さんは、救急度により、それぞれ治療された当院の担当医が搬送方法を決定します。一および二での搬送は、

心筋梗塞・脳出血・胎児仮死（出産時の状態のよくない赤ちゃん）
・大きな血管の破裂などです。三
四は、比較的状态が落ち着いていて救急度でいえばやや低いものといった具合です。

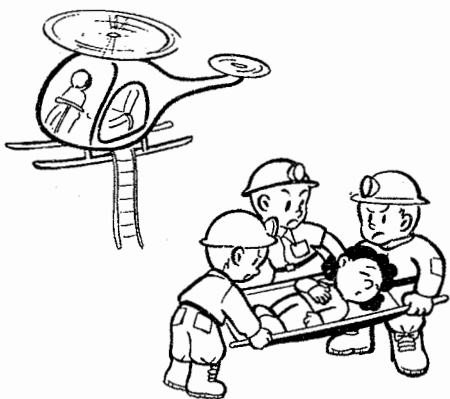
平成八年度までの本土への搬送の手段（主に空輸）には、当院の担当医が搭乗し、搬送費用を患者さんに負担していただいております。平成九年度から、島根県のドクターヘリ搬送というシステムが導入され、本土の専門病院から患者さんの病状に合った専門の医師が搭乗し、搬送できるようになりました。西郷町をはじめ、各町村のご協力もあり、患者さんからの搬送による費用負担もなくなっ

たことは、患者さんのもとより私たちにとっても大変ありがたいこととなりました。
ではここで、実際の搬送手順を簡単に説明させていただきます。

一、当院にて、診断・救命処置を迅速におこない、患者さんの家族に搬送先を決めていただく。
二、本土の受入れ病院の担当医と連絡をとり、搬送を決定する。
三、西郷町を通じて、県防災センターへ、ドクターヘリの要請を連絡する。
四、防災ヘリコプターにて、本土の病院より専門医師が搭乗し、患者さんは、隠岐空港より防災ヘリコプターへ搭乗し、本土の専門病院へと搬送される。

およそ搬送要請をしてから本土の病院に着くまでに二時間くらいを要します。防災ヘリコプターの中では、処置がほとんどできないため、当院にて然るべき救急処置を行います。数年前までは、年間二十件前後だった緊急搬送も、現在は五十〜六十件と増え、社会のニーズにあった治療を提供するようになってきました。

最後に私ごとですが、隠岐に来て、早二年が過ぎようとしております。前回の勤務もあわせて通算すると約四年間です。医師として人間として未熟ながらも「患者の皆さん一人一人を大切にしなければ」と思い診療してきたつもりですが、忙しさもあいまって、つい粗雑になったこともあります。誌面をお借りして、心からお詫び申し上げます。この三月をもって退職し、心機一転米国で臨床医をすることにしました。米国の医師国家試験を受験するのに勉強をしましたが、隠岐の医療レベルも、本土に決して劣るものではないと思います。今後も更に隠岐病院が発展することを祈り、最後の言葉といたします。
ありがとうございました。



MR I 検査は？

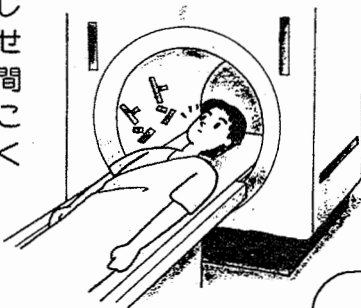
どのように行われるのでしょうか

- 1) MR I の検査は全部で40分程度です。
- 2) 検査装置はMR I 室の中央にあります。担当放射線技師の指示に従って、検査台の上に寝てください。
- 3) 身体の位置が決まったら、検査台が自動的に装置の中へ入っていきます。
- 4) 検査が始まる前には、担当者がその都度マイクでお知らせします。

- 5) 検査中は、担当放射線技師とマイクを通して話すことができます。気分が悪くなったりした時には、マイクを通してお知らせください。



- 6) 検査中は、「コンコン・ガッガッガ」など連続音が周囲から聞こえてきます。多少うるさく感じますが、身体に触れることなく、痛みを感じることもありません。なので、検査の間は身体を動かすことなく辛抱してください。



- 7) 普通、一回の検査で、数回の写真撮影が行われます。

MR I の造影剤とは

MR I 検査では、より詳しい検査を行うために「造影剤」を使用することがあります。

造影剤は普通、静脈から注射されます。また、経口的に飲用する造影剤もあります。

これらの造影剤は比較的副作用が少ない医薬品ですが、次のことに注意してください。

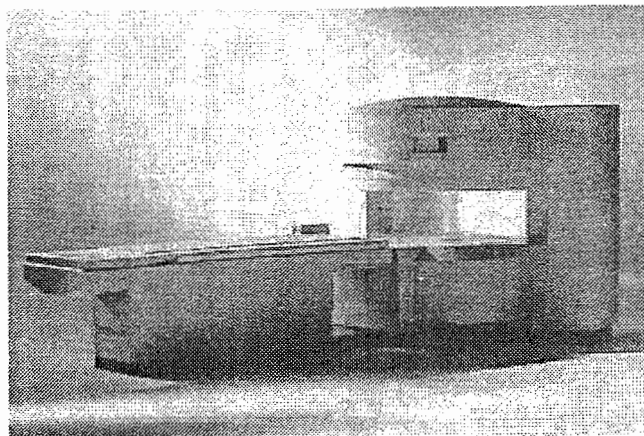
- ◆喘息（ぜんそく）にかかったことのある方、またはアレルギー体質の方は、事前に担当医または担当放射線技師にお知らせください。



- ◆造影剤を投与された後に、気分が悪くなったり、じんましんがでたりすることがあります。このような異常を感じた時には、すぐに担当放射線技師にお知らせください。

検査の後に・・・

- 検査後は普段とおりの生活ができます。
- 結果は後日、担当医から説明されます。



当院のMRI装置（実物）です

特集

イメージ・アップ・アイ MRI

ってなに？

MRIとは？

MRI（磁気共鳴断層撮影）とは、強い磁石と電波を使用して、身体の内側の状態を検査する方法です。患者さんの身体を切ったりすることなく、いろいろな角度から身体の断面の写真を撮影することができます。

MRI検査を受ける時の注意

MRIで使われている磁石や電波は、普通の場合は人体への影響はありません。ただし、次のような方は検査を受けられないことがありますので担当医、または担当放射線技師にあらかじめお知らせください。

●心臓ペースメーカーや刺激電極などを身に付けている方

●体内に脳動脈クリップや人工関節等の金属が埋め込んでいる方

●以前に外科手術を受けたことがある方

●妊婦・または妊娠されている可能性のある方

●閉所恐怖症など、狭いところが苦手な方



MRI検査前の準備

次の物は、故障したり、検査に影響することがありますので検査前に必ず取り外してください。

金属類～時計・眼鏡・ライター・鍵、アクセサリー類

磁気類～キャッシュカード・テレホンカード・クレジットカード・定期券

その他～取り外しのできる義歯・補聴器・カイロ・ベルトエレキパン・金属のついた下着



●化粧品（アイシャドウ等）の中には、金属を含んでいるものがありますので、検査前に落としてください。

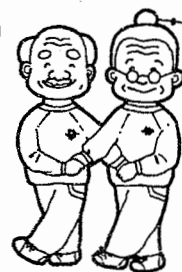
●検査前に、所定の検査衣に着替えて入室していただきます。

●検査時間は全部で40分程度ですが検査前にはトイレを済ませておいた方が良いでしょう。

MRIを子供の患者さんに行う時

MRI検査では、動くと写真がきれいに撮れません。特に低年齢の子供の患者さんの場合には、動かないように眠っている状態で検査を行います。患者さんによっては、授乳だけで眠らない時などにごく軽い睡眠剤を使うこともあります。

患者さんへの 思いやりのマナー



先般、投書箱に「付添い者と面会者のマナーが悪く、同室者が迷惑している」という内容のご意見がありました。面会については、長い間病棟管理の大きな課題の一つでもありました。

このご意見を機に皆様と一緒にこの問題について考えてみたいと思います。病院では付添いについては、原則として必要はありません。患者さんの病状によって主治医が必要と判断した場合に限り三親等以内の家族に認めることがあります。また、面会時間は治療上看護上の必要から、当院では午後三時～午後七時までとなっております。（急用・急変時はこの限りではありません）

さて、皆様は面会のマナーとしてどんなことを心掛けているのでしょうか？時間を守り、相手の立場になって、静かに面会していらっしゃる方ばかりなら問題は起こりません。現状はどうでしょう。

前記の投書に加えて、外来の受診のついで、または待ち時間を利用しての「面会時間」以外の面会、友人・知人、近所の方の「行かないと失礼だから」の面会など面会者側の都合による面会も多いように思われます。

一方、面会される患者さんはどう思っているのでしょうか。誰でも病気で苦しいとき一番傍にいて欲しいのは肉親だと思います。そんな患者さんへの家族のお見舞いは治療効果の上からも大歓迎です。しかし、病気で苦しいとき次々に面会者が来て、患者さんは同じことを何回も受け答えしなければならぬ。病室には色々な方が一緒に生活しておられます。場合によっては面会者によって気分を一新され病氣と闘う力もでてくる方もおられることを考えて…。

面会者のマナーとして、

- 1 面会時間を守りましょう。
（午後三時～午後七時）
- 2 患者さんの立場になって（同室者も含む）静かに面会する。歩ける方なら各階のデイルームを利用しましょう。
- 3 付添い者も原則として面会者と同じです。面会者への茶菓子の接待はやめましょう。
- 4 食品のお見舞いは慎重にしましょう。（治療のため食事制限の場合があります）
- 5 病状など前もって家族に問い合わせしてから支障のないことを確かめてから面会しましょう。
- 6 お子様連れの面会および、一度に大勢の方での面会は遠慮しましょう。

以上、日頃感じることを記載いたしました。規則を守ってもマナーが悪ければ何にもならないと思います。入院中の患者さんが、早く良くなって家族のもとに帰れるように私どもスタッフも努力いたしますのでご協力とご理解をお願いいたします。また、皆様からのご意見もお待ちしております。

総婦長 本井 幸枝

皮膚科診療時間 変更のお知らせ

火・金曜日の皮膚科の診療を
4月より週一回火曜日のみに
変更いたします

診療時間

9:30～15:00まで
（受付は8:00から）

あどがき

春一番が吹き荒れ、啓蟄も過ぎ、いよいよ春本番という感じになってきました。虫たちも、木々も草花も一斉に目を醒ますとき。全てものが命を吹き返す。▼先日初めて脳死臓器移植が行われました。過剰とも言える報道のなか、遺族の方の心情を察するとともに、脳死移植と救命医療という対極に位置する医療の共存の難しさも感じました。▼提供者の善意に応えるためにも、新しい命を吹き込まれた方々には、頑張ってもらいたいと思います。▼私も目を醒まし、ダンゴでも食べて、季節とともに気分一新頑張ろう！…と思う。

三兄弟のCDを買った M